

◎タリビッド点眼液 ・◎眼軟膏 ・○耳科用液 [外], ▼タリビッド錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 オフロキサシン (U) ofloxacin 【分類】 合成抗菌剤 [ニューキノロン]  
【単位】 ◎点眼液 5mL/本 [0.3%], ◎眼軟膏 3.5g/本 [0.3%], ○耳科用液 5mL/本 [0.3%], ▼100mg/錠  
【常用量】 ■経口：300～600mg/日  
■点眼：1回1滴, 1日3回点眼  
■眼軟膏：適量を1日3回塗布  
■耳科用液：1回6～10滴を1日2回点耳し, 点耳後約10分間の耳浴  
【透析患者への投与方法】 100mg1日1回であるが, レボフロキサシン錠に準じてよいと思われる (5)  
【その他の報告】 25%に減量 (3) 初回400mg, 以後24hr毎に200～400mg [HD日はHD後] (17)  
【PD】 初回400mg, 以後200mgを24hr毎 (17)  
【CRRT】 400mgを8hr毎 (17)  
【保存期 CKD患者への投与方法】 Ccr>50mL/min：400mg分2, Ccr10～50mL/min：200mg分1, Ccr<10mL/min：100mg分1であるが, レボフロキサシンに準じてよいと思われる (5)  
【その他の報告】 Ccr>50mL/min：400mg/12hr, Ccr30～50mL/min：400mg/24hr, Ccr10～30mL/min：200mg/24hr, Ccr<10mL/min：100mg/24hr (7)  
Ccr>50mL/min：常用量, Ccr10～50mL/min：50%に減量, Ccr<10mL/min：25～50%に減量 (10)  
GFR>50mL/min：減量の必要なし, GFR10～50mL/min：50%に減量, GFR<10mL/min：25%に減量 (3)  
GFR>50mL/min：減量の必要なし, GFR10～50mL/min：常用量を24hr毎, GFR<10mL/min：200mgを24hr毎 (12)  
Ccr>50mL/min：常用量を12hr毎, Ccr20～50mL/min：常用量を24hr毎, Ccr<20mL/min：50%量を24hr毎 (U)  
GFR>50mL/min：200～400mgを12hr毎, GFR10～50mL/min：200～400mgを12～24hr毎, GFR10mL/min未満：200mgを24hr毎 (17)  
【特徴】 キノロン系合成抗菌剤で、嫌気性菌を含むグラム陽性菌・グラム陰性菌に対して、広い抗菌スペクトルを有する。  
【主な副作用・毒性】 ショック・アナフィラキシー, SJS・TEN, 過敏症, 血球減少, 消化器症状, 急性腎不全, 肝障害, 間質性肺炎など  
■点耳：耳痛, そう痒感  
■眼用：眼瞼炎, そう痒感, 眼痛  
【F】 98% [po] (14) 95～100% (13,U)  
【tmax】 0.5～3hr (13) 【Cmax】 200mg経口投与自1.6～2.2μg/mL (13)  
【代謝】 3%が代謝を受ける (U)  
【排泄】 尿中未変化体排泄率75% (14) 68～80% (12) 70～90% [36hrまで] (U) 尿中排泄率64% (13) 胆汁中に4～8%排泄 (U)  
【CL】 3.5mL/min/kg, 腎障害で低下 (13)  
【t1/2】 6hr (14) 4.7～7hr (U) 高齢者：6～8.5hr, 非代償性肝硬変：7.3～19.5hr (U) 5.7hr, 腎障害で延長 (13) 5～8hr (12)  
【腎障害患者のt1/2】 15～60hr (U) 2.8hr [CVVH時] (Fuhrmann V, et al: Am J Kidney Dis 42: 310, 2003) 4.2～9.9hr [HD時] 28～37hr (12) Ccr30mL/min以上：5hr, Ccr30未満：12.6hr (1)  
【蛋白結合率】 25% (12,13) 20～25% (U)  
【Vd】 1.23L/kg (14) 1.8L/kg(13)1.5～2.5L/kg (12) 0.9～1.8L/kg (U)  
【MW】 361.37  
【透析性】 除去率10～30% (U) 【透析CL】 89.9mL/min [CVVH時] (Fuhrmann V, et al: Am J Kidney Dis 42: 310, 2003) 【PD】 2～10% (U)  
【TDMのポイント】 全身投与での有効治療域0.05～4μg/mL (14) 【O/W係数】 0.278 (11)  
【相互作用】 NSAIDs：痙攣, Al・Mg含有制酸剤：吸収低下, ワルファリンの作用増強 (1)  
【更新日】 20170916

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。